

生まれ、新たな価値と魅力。

福井市を舞台に、まちと人の魅力を掘り起こして新たな価値を生み出し、都市圏に向けて情報発信する「未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト」が2016年秋に始動しました。五つのプログラムについて都市圏の

クリエイターや大学生、市内でいきいきと働く若い企業人、これからの福井を支える中高生らが、濃密なコミュニケーションを繰り返しながら取り組み、都市と地方の新たな人の交流や創造の場を生み出しています。

福井の伝統と外の視点が融合。

福井市内の企業と都市圏の次代のクリエイターらが共創する実践型学びの場「XSCHOOL」の発表会が2月19日、東京・港区の東京ミッドタウン・デザインハブで開催された。

伝統のもののづくりの技を生かしながら、革新的なクリエイティブの実験・実践を行う「XSCHOOL」が福井市で始まったのは昨年11月。「デザイン」の力を生かして新たな仕事をつくりたい。「都市以外での働き方を考えたい」。そんな意識を持った都市圏の若者24人が集結した。住む場所も職種も異なる者同士が3人1組となり計8チームを

結成。カレンダー、駅弁、セラミック製品などを手掛ける市内の「にしばた」「番匠本店」「廣部硬器」の3企業をパートナーに迎え、それぞれの業務分野に絡めた事業計画を提案。約4カ月にはわたるディスカッションやワークショップを経て、東京ミッドタウンで成果をお披露目した。

発表会は、立ち見が出るほどの賑わいとなり、各チームは試作品を披露しながら個性あふれるプレゼンテーションを行った。学びにつながる取り組みが1日一つ書かれた日めくりカレンダー、絵巻物に包んだ弁当、蓄光できる子どものお守りなど、福井の企業が持つ技術を基に新たな価値を生み出すプロジェクトが発表された。どの案にも、ビジネスとして軌道に乗せるための緻密な具体策が盛り込まれ、ゲストコメンテーターが「普段意識していなかった視点や感覚を見つめ直すよい機会になった。わが社で採用したいくらい」となるほど。背景の異なる都市圏の若者たちの多様な感性、多角的な視点が、福井に息づく伝統のもののづくりと、デザインを触媒として結びついた「化学反応」に、集まった参観者も熱心に聞き入っていた。



約120日間にわたり、異なるバックグラウンドの若者同士が対話と実験を繰り返した「XSCHOOL」。東京発表会は立ち見が出るほど賑わった。

発表者の一人、青木優莉さん（横浜市）は、「自分が地方でどう社会貢献できるかを試すため」に参加。異業種の仲間とのチームワークで、「自分にできることを見つめ直し、そして相手の強みをどう引き出すかを学びました」と目を輝かせた。各チームは、さらに事業に磨きをかけ、3月11日に福井市で開かれる最終発表会に臨む。



XSCHOOLの流れ	
2016年	
9月下旬	受講生募集開始
10月下旬	1期生24人選考・決定
11月中旬	第1回ワークショップ パートナー企業でのフィールドワーク
12月上旬	第2回ワークショップ
12月中旬	第3回ワークショップ
2017年	
1月上旬	第4回ワークショップ 事業化に向けたレクチャー
1月下旬	第5回ワークショップ アイデアのブラッシュアップ
2月19日	XSCHOOL発表会 ／東京ミッドタウン・デザインハブ
〔XSCHOOL 最終発表会@福井〕	
3月11日（土）13時半～18時	
福井新聞社風の森ホール 福井市大和田 2-801	
参加希望者は「XSCHOOL」 Facebook ページから申し込みを！	

講師／原田祐馬（UMA/designfarm代表）、萩原俊矢（ウェブデザイナー）、高橋孝治（プロダクトデザイナー）
事業化アドバイザー／山口高弘（GOB Incubation Partners代表） パートナー企業／にしばた、番匠本店、廣部硬器

次代の“あたりまえ”な働き方研究所

働き方、暮らし方の魅力と可能性探る。

福井市内の企業に勤める10人の「企業アンバサダー（大使）」たちの多様なスタイルの働き方や生き方を通して、福井で暮らし、働くことの魅力や可能性について考察し、東京で情報発信した。

「次代の『あたりまえ』な働き方研究所」は、全国へ向けて福井市で働き暮らすことの魅力を発信し、移住者増につなげるプログラム。企業アンバサダーには、市内の企業に勤める多彩な面々が就任した。

昨年10月29日には、東京・恵比寿で開かれた、若者のU・イターンを促す催し「地域仕掛け人市2016」に参加。福井市の出展ブースやテーマ別の分科会で、アンバサダーが来場者に向けて福井の魅力を熱く発信した。そこで興味を持った首都圏の20歳代の若者6人が11月25、26の両日、福井市にある創業186年のみそ製造販売「米五」や、国内トップシェアを誇る熱転写ラ



福井市内の企業に勤める企業アンバサダー10人が、福井で暮らし働くことの魅力や可能性について考察し、東京で情報発信した。また首都圏の20歳代の若者を案内し、福井市の企業やまちの魅力を体験するサポートを行った。

アンバサダー協力企業／永和システムマネジメント、米五、ジャパンポリマーク、タッセイ、日華化学、新田塚コミュニティ、福井銀行、福井県民生活協同組合、福井経緯興業、マルツ電波



福井市越廼地区の古民家で「お試し居住」する、ウェブ制作会社の社員たち。

冬の日本海 トライアルステイ

古民家で「住む」「働く」をお試し。

県外在住者を対象に、福井市越廼地区の古民家で「お試し居住」を体験してもらい、福井での暮らしや新しい働き方を模索する試み。県外企業のサテライトオフィスとしての実験の場でもある。第1号として、東京・大阪に拠点を持つウェブ制作会社の社員十数人が1月末から5日間にわたって滞在。ほかにも、2個人1社が滞在した。



カメラとペン、メモ帳を手にした中高生たちがチームに分かれ、福井市内の企業や名所、食文化を取材した。

福井の幸せを見つけよう 取材の旅

「福井ってすごい」中高生が再発見。

昨年11月3日、福井市内の学校に通う中高生23人が「1日記者」となり、市内の一乗谷倉庫氏遺跡、松浦機械製作所ほか、郷土料理の保存継承に取り組むグループを取材。その驚きや感動を自分たちの言葉を使ってオリジナルの新聞に表現していく作業を通して、まちと人の魅力や価値を再発見した。



関東と関西の大学生が3人1組でチームを組み、斬新なビジネスアイデアを次々と発表した。

アイデア対決!!!

関東・関西の学生が斬新アイデア対決。

都市圏の大学生が福井市内の地域資源を活かしたビジネスプランを競った。関東、関西予選を勝ち抜いた代表6チームが昨年10月31日、福井市で開かれた決勝戦に臨んだ。福井大の学生のサポートを受けながらプランを構築。「木田ちそ」をPRするマラソン大会や、福井市のお土産を詰めた防災キットなどのアイデアをぶつけ合った。